

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○新学習指導要領実施に向けた着実な準備と円滑な導入 ○「自ら未来を切り拓く人材」の育成に向けた継続的で一貫した意識付け・動機付けの実践	①新学習指導要領の履修指導及び講座編成の完成を目指す。 ②プログラミング教育を充実させ、1人1台端末などICT活用による教育の推進に取り組む。	①希望進路の実現に向けて講座編成を工夫し、履修計画を立てさせる。 ②研修、研究授業の充実を図り、全ての教科でプログラミング教育の推進に取り組む。	①1,2年次生の履修計画作成にあたり、適切な講座編成及び履修指導ができたか。 ②十分な研修、研究授業は行われたか。論理的思考力、問題解決力、ICT活用能力を育めたか。	①次年度の履修計画作成にあたり、適切な指導をすることができた。 ②校内研修会や互見授業を充実させ、他教科の授業からも授業改善に活かせる知見を得られた教員が増えたか。	①希望進路の実現に向けて、さらに講座編成の工夫を進めていく。 ②教科横断型の校内研修会や互見授業をさらに充実させる方策を引き続き追求する。	①学習状況の達成状況について主語がわかりにくい。記載方法を工夫するとよい。 ②データ活用について、どのような指導をしているのか知りたい。 ③夏期講習で受講者が少ない講座があるが、生徒の希望をとって実施しているのか。	①新学習指導要領の完成年度となる令和6年度の時間割を編成することはできたが、週に一度7時間目を設定せざるを得なかった。 ②職員研修や公開研究授業等を通じて、職員の理解向上は図れた。特別な機会だけでなく、生徒も含めて普段からプログラミング教育を意識するような取組みが必要である。	①生徒の履修科目や大学入学者選抜の受験科目等の動向を見ながら、教育課程の編成を検討していく。 ②プログラミング教育や一人一台端末の活用法などを紹介する機会を増やし、授業改善を図る環境を醸成する。
2 生徒指導・支援	○様々な生徒の状況把握に努め、個々に対応した支援教育の充実を図る。 ○行事等を通じて豊かな心と健やかな体を育む。	①生徒の小さな変化に気づき、組織的に支援する。 ②安全に留意し、生徒主体で行事を計画・実施できるよう支援する。	①教職員間で生徒情報を共有し、SCやSSWとの連携を密にしてチームで対応する。 ②行事等の計画段階から生徒を支援し、生徒、職員が一体となって取り組む。	①校内で情報共有を図り、協力して課題への対応ができたか。 ②生徒が主体的に行事を運営し、達成感を得ることができたか。	①ケース会議を中心に生徒個々の情報を共有し、解決に向けての方策を立てることができた。 ②文化祭、体育祭、合唱祭では計画段階から生徒の意見を反映し、円滑な運営ができた。	①支援が必要な生徒が増加傾向のため、研修等を通して職員が率先して対応できるようにする。 ②日程の段階から学校行事を見直し、学業に負担をかけず生徒主体で運営できるようにする。	①どのような背景で支援が必要な生徒が増えているのか気になる。 ①ケース会議の運営状況を教えてほしい。 ②行事の準備・運営などにGoogle classroomを活用するとよい。	①メンタル面や人間関係に支援を必要とするケースが増加傾向であるが、カウンセラーや外部機関などと連携して対応を図ってきた。 ②体育祭、文化祭、合唱祭等の生徒会行事を委員会等が中心となって生徒主体で実施できた。準備を早めに行って、さらに充実した行事となるよう支援が必要である。	①生徒情報の共有を図って組織的に対応するため、教育相談コーディネーターを中心とした支援体制を図っていく。 ②行事終了後の振り返りを活かして、次年度へ向けて改善点等を検討していく。
3 進路指導・支援	変化が速く予測が難しい社会を生き抜くためのキャリア観の育成に向け、意識付け・動機付けを徹底し、進路指導の充実を図る。	3年間を見据えて段階的に適切な支援を実施し、キャリア観を育成する。	生徒が主体的に進路選択できるよう指導を充実させ、適切な支援ができるよう、生徒・保護者に継続的に情報提供を行う。	各種プログラムが効果的に実施され、進路実現に役立てることができたか。キャリア観育成に向け、適切に情報を提供できたか。	年次ごとに生徒・保護者に対して進路説明会を実施し、進路決定の段階に応じた情報提供をすることができた。	引き続き進路実現へ向けた取組みを充実させる。特に、各プログラムが生徒一人ひとりの課題解決に結びつくよう支援していく。	・進路指導で卒業生を手く活用しているか。 ・各種説明会の案内を早めに出すとよい。	コロナ禍のため対面で行っていなかった説明会を保護者も参加できるようにし、情報を生徒保護者で共有して家庭でも話し合いの機会を設けやすくした。 入試の多様化が進んでいるので情報を収集し、適切な進路指導ができるよう検討していく必要がある。	早めに計画を立てて保護者への案内を早くするとともに、生徒が主体的に進路選択できるように新しい情報に応じて指導内容を検討していく。
4 地域等との協働	生徒の社会参画の意欲向上に努め、地域等との幅広い連携を推進する。	生徒が地域参画の意義を実感できるよう、活動により豊かな感性や社会性を身に付けさせる。	地域の資源や実情、課題を踏まえ、広く貢献活動ができるよう再構築する。	生徒の社会参画の意欲向上が図られたか。地域への貢献活動を再構築することができたか。	ボランティアに大勢が参加した。地域貢献活動を後期に全年次実施し、概ね達成できた。活動を通じて生徒の意識向上が図ることができた。	引き続き生徒の参加意欲を引き出す取り組みを工夫する。地域交流の在り方を他グループとも共有し実施の方向で検討を続ける。	・ボランティアの募集時期が早いので、時期をずらしてくれるとありがたい。 ・ボランティア活動に参加しようと思うこと自体が素晴らしい。	ボランティア活動や地域貢献活動をほぼ予定通り実施することができたが、三世代地域交流会はコロナ禍の影響が残り実施できなかった。	地域との交流の意義を生徒に伝えつつ、積極的に情報提供を行っていく。次年度へ向けて地域とさらなる交流ができるよう検討していく。
5 学校管理 学校運営	○事故・不祥事防止に向けた継続的な取組の実施 ○教員の働き方改革の実践に向けた学校管理体制の追求	①県民目線の意識を徹底し、不祥事防止に組織的に取り組む。 ②業務の効率化を進め、タイムマネジメント意識の醸成を図る。	①不祥事防止研修をグループで分担して実施する。 ②ICT機器を活用して業務の効率化に取り組む。	①時期や課題に沿った研修が企画、実施されたか。 ②事務作業の軽減が図られたか。	①定期テスト・人権などに関する不祥事防止研修を実施した。 ②スマートフォン等による欠席等の連絡システムの活用を始めた。	①引き続き各種研修を行い、事故防止に努めていく。 ②朝の電話による欠席連絡が減ったが、さらなる効率化を進めていく。	①引き続き事故防止に取り組んでほしい。 ②ペーパーレス化は推進すべきと考えるが、内容によっては紙も必要である。	①不祥事防止研修等を通じて事故・不祥事防止の意識を職員に醸成し、防止を図ることができた。今後も継続して取り組んでいきたい。 ②事務作業の軽減を進めることができたが、引き続き検討を進めて軽減化を図る必要がある。	①引き続き研修等を通じて事故・不祥事を他人事ととらえず、自分事としてとらえる意識を醸成していく。 ②前例にとらわれずに工夫できることがないかを追求していく。